

11月13日 教育実習

私は教育実習を中学校で行った。理由の一つはアルバイトで中学生相手の塾講師をしていたから。もう一つは出身高校の教育方針が嫌いだったからである。指導教官は国語のベテラン。女性の先生だった。非常に厳しく、初日から小テストの採点、ノート点検を任せられ、3日目くらいから授業を。ちょうどその時期壁新聞を生徒に作らせていたので、放課後は生徒と一緒に新聞づくりに勤しんだ。

授業では漢字の書き順から正され、発問の難しさや友達感覚の生徒との接し方に苦悩した。夜遅く家に帰り、夕飯後に授業準備。2週間ずっと寝不足だった。研究授業の日、それまで授業を見ていただいた先生方から様々なダメ出しをされていたが、授業後ある先生が「あなたの板書は一枚の絵を見るようでとても良かった」と褒めてくださった。

その日の実習日誌に「前日の教材研究の成果があったようですね。今までの授業展開の中では、いちばん良かったと思います。工夫すべきところはまだまだありますが、それは実際に教壇に立たれるようになってからの課題です。常にこれでいいのだろうかと自分自身に問いかけながら進むことを忘れないでください。私自身もそういう毎日の繰り返しです。」というコメントが。どんな質問をしても瞬時に答えてくれる、授業も生徒指導も完璧に見えていた先生から贈られた言葉が、30年以上の私の教員生活を支えている。

教育実習生のみなさん、お疲れ様でした。みなさんが近い将来、教壇に立ってキラキラと仕事して下さることを期待しています。

担当して下さった指導教官の先生方、様々な形でサポートして下さった先生方、ありがとうございました。

